

## 学は以てやむべからず Keep learning and be cheerful

藤原直子\*

FUJIWARA Naoko\*

「出藍の誉れ」という言葉を知ったのは、早川先生の還暦のお祝い会の後、わたしたち指導生に送ってくださったメッセージでした。「『出藍の誉れ』といわれるように、みなさん自身の良さを生かしながら、それぞれの可能性を追求し実現して欲しいと望んでいます。」この時から10年が経ち、それなりに精進している「つもり」でも、その域に達するにはハードルが高く、さらに、目標とする早川先生が新しい挑戦を続けていかれる姿から、そのハードル自体もますます高くなっているように感じます(図1)。

梶山に着任して22年。いまの私があるのは、早川先生との出会いがあってこそだと思っています(図2)。大学院生時代、研究者／教育者として生きるための根っこの部分を育ててもらいました。自分の関心あるテーマを自由に(自分勝手に!?)研究させてもらえたこと、研究者としてのキャリ

アを積むべく、さまざまな探究の場を与えていただきました(図3)。

また、教育者としての早川先生からは多くのことを学びました。私は、これまで早川先生の怒った顔を見たことはほとんどありません。いつも和やかに「どうもどうも～」という声をかけてくださる姿が印象強く、ものまねできるほどです。朗らかでいること、そうすることで相手の気持ちもほぐれ、その人らしさが出てくる、だからできるだけ機嫌良くしよう、というようなことを1度目(名古屋大学)の定年退官記念のお祝い会でお話しされていました(図4)。なるほど!そういうことだったのかと、私自身もとても共感した覚えがあり



図1. 名古屋大学最終講義 (2015年2月9日)



図2. 名古屋大学の研究室にて (2015年冬)



図3. 名古屋大学教育学部棟裏庭での花見とBBQ (1998年春)  
中央が早川操先生、後列左端が筆者(藤原直子)。撮影:伊藤博美

\* 梶山女学園大学人間関係学部  
2021年12月26日受付

ます。ただ、それを実践しようとするとなかなか難しく、い  
まさらながら早川先生の懐の深さを感じています。それぞれの  
「青」が出るようになるまで、これからもご指導よろしく  
お願いします（図5）。



図4. 名古屋大学定年退官のお祝い会での笑顔（2015年3月8日）



図5. 名古屋大学定年退官のお祝い会にて教え子とともに  
（2015年3月8日）

後列左から、松岡靖（神戸松蔭女子学院大学教育学部准教授）、伊  
藤奈賀子（鹿児島大学高等教育研究開発センター准教授）、龍崎忠  
（岐阜聖徳学園大学教育学部教授）、石川昭義（仁愛大学人間生活  
学部教授）、虎岩朋加（愛知東邦大学教育学部准教授）、生澤繁樹（名  
古屋大学大学院教育発達科学研究科准教授）、前列中央：早川操先  
生、藤原直子（椋山女学園大学人間関係学部教授）、右に伊藤博美  
（椋山女学園大学教育学部教授）